

令和元年6月11日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16662

研究課題名(和文) アフリカによる労働履物の創造に関する実践的地域研究：新たな地下足袋文化の探求

研究課題名(英文) Engaged Area Studies to Creating Work Footwear by Africa: Exploring a New Culture of Jika-Tabi

研究代表者

田中 利和 (Tanaka, Toshikazu)

東北大学・東北アジア研究センター・学術研究員

研究者番号：50750626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は20世紀における日本の発明品である労働履物の地下足袋をエチオピアの人びととともに作る実践のプロセスを対象に調査した。地域の技術と素材を用いたエチオピア産地下足袋の試作品は2017年1月21日に、調査地ウォリソの皮革製靴職人のカッバラ氏によって制作された。私達はこの地下足袋を、グローバルな文脈で呼ぶ時はエチオタビと名付けた。研究期間中に合計19タイプ、220足以上のエチオタビを、農民、職人、研究者の関係性に着目し、ともにデザインすることによって制作した。最終的に、現地での宣伝と販売の調査を通じて、持続的なエチオタビ協創の枠組みを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的成果は、日本の発明品である地下足袋の履物としての特性と需要と制作可能性をエチオピアにおける実践的な調査を通じて文化の側面から明らかにしたことである。また、裸足での農作業中の怪我や、足の疾病に関する差別といった、現地の社会課題に対し、地下足袋にまつわる人びととの協創によって持続的な解決を目指し取り組んできた点で学術的意義がある。また、地下足袋制作による現地雇用の創出・産業活性化という点で社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study examines the process of co-creative practice of Jika-Tabi work footwear, a type of rubber-soled work footwear invented in Japan in the 20th century, with Ethiopian people. The first prototype of the Ethiopian Jika-Tabi, manufactured using local skills and materials, was created in the Woliso research field on January 21, 2017, by local leather shoemaker, Mr. Kebbera. We named it Ehito-Tabi in the global context. We made totally more than 19 types and 220 pairs of Ethio-Tabi during the research period by co-designing focus on relationships between researchers, shoemakers and farmers. We eventually established sustainable co-creating framework of Ethio-Tabi through the market and promotion research.

研究分野：地域研究

キーワード：地下足袋 履物 実践的地域研究 協創 エチオタビ Ethio-Tabi

1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまでアフリカにおける在来の牛耕に焦点をあてた研究を行ってきた。エチオピアを対象とし、長期間のフィールドワークを通じてその実態を明らかにしてきたとともに、牛耕が内包する問題の発見と解決にむけて、研究者が地域と共に協力する研究のありかたを模索してきた。その中でも、牛耕を構成する要素として「人」が裸足で作業をする際に負傷する事例をかなりの頻度で観察した。牛耕が行なわれる雨期は、粘性の土が既存の履物では張り付いてしまうため、農民は圃場に裸足で入ることになる。硬い土塊が農民の足を傷つけ、破傷風などの疾病の原因になり、労働力の低下を招くという問題もしばしば引き起こしてきた。報告者は日本の「地下足袋」を装着し参与観察を行なったところ、安全かつ効率よく作業をすることができた。このことは農民の関心を惹きつけ、足の怪我という問題に対する解決策としての多くの購入要望の声があった。

日本でおおよそ120年前に発明された「地下足袋」は、エチオピア農民への予備的な試用依頼の調査を通じて、農作業に適合した技術の結晶としての価値が見込めた。また農民の足を保護するという観点から、アフリカ農民の傷病予防、生活および労働条件の改善に革新をおこす可能性があることが想定された。そこで本研究では、集約的なフィールドワークによる実証的な調査から、報告者と地域住民との相互行為によって浮き彫りになる課題の発見と、その問題を解決するような実践的な研究課題が重要であるという着想に至った。

2. 研究の目的

本研究計画「アフリカによる労働履物の創造に関する実践的地域研究：新たな地下足袋文化の探求」の目的は、裸足で労働作業を行うアフリカの人びとが、よりよい条件で作業するために、労働履物としての「地下足袋」を文化として創造する実践の特質を、当事者意識をもつ研究者が参与する過程を通じて、フィールドワークによって解明することにある。アフリカ在来の履物文化と、日本で発明された「地下足袋」文化が、研究者の働きかけによって有機的に結合し、新たな形でアフリカによって創造されていくというのが、本研究の仮説である。そのため、エチオピア中央高原に位置するオロミヤ州ウォリソ周辺を主な調査事例にし、地下足袋の開発、普及のための知識や制度、研究者の役割について具体的に明らかにする。

3. 研究の方法

本研究はエチオピアの文脈に沿った地下足袋の(1)使用、(2)制作、(3)販売、(4)宣伝の4つの研究群にわけてフィールドワークを実施する。まずエチオピアの農民を対象としたフィールドワークを実施し、既存の履物と労働の関係について実態を明らかにする。地下足袋の試用依頼をし、彼らの使用法について分析する。エチオピアの既存の履物産業について実態を調査するとともに、地下足袋製作を行う。既存の履物と農具に関する流通経路を調べ、流通網の特定と選定を行う。地下足袋の宣伝方法について検討する。以上の4つの研究群の成果を総合的に評価し、アフリカで新たに生まれる地下足袋文化のための、知識や制度、研究者の役割について具体的に明らかにする。

4. 研究成果

2016年度(1)使用(2)制作(3)販売の調査に関する成果

国内における具体的な協働の形について検討した。Asahi Shimbun Globeの協力による宣伝(7月27日配信のウェブ版)では、本研究課題を様々な分野の人びとと関心を共有できることがわかった。また日本の地下足袋会社の老舗「丸五」から直接連絡をもらうことができ、研究用の地下足袋を30足提供してもらった。

2016年9月9日から2017年1月23日までの間、実施したフィールドワークでは、30足の地下足袋をこれまでに協力的であった農民に地下足袋を自由に使うことを前提に提供し、使用に関する調査をした。その結果、穀物の刈り取り作業時の使用のみならず、寛ぎの時間も好まれて使う、さらには兄弟、友人間で、共有される習慣があるということがわかった。

地下足袋の(2)制作に関する調査では、2017年1月21日に地元起業家のカッバラ氏によって丸五の地下足袋を模作した黄色帆布による最初の片足のコハゼがない試作品が完成しEthio-Tabiと名付けた。製作者のカッバラ氏によると、制作費は労働賃や資材の運送費を除いて74Birr≒370円(当時のレート)であると語った。販売に関する予備的調査では、農民は120Birr≒600円(当時のレート)で日本の地下足袋の競売を通じて、農民が買い取る場面を観察した結果から、この制作費は現地の商売としての採算がとれると示唆された。

2017年度(2)制作の調査に関する成果

2017年8月28日から9月7日の間に製作に関するフィールドワークをおこなった。農民と

製作者の職人カップバラ氏と報告者とともに現地の文脈に沿った地下足袋のデザインをした。その結果、地下足袋会社老舗「丸五」の製品（hitoe たびりら）を共有するなかで、Fashionable×Functional=Functionable というファッションと機能性を両立するコンセプトが確立した。コハゼがなく、短めの、より強度があり、履物と認識される「革製」の地下足袋を3日で20足制作することを目標とした。これは既存の現地の製靴技法を応用する意図でもあった。

地下足袋会社老舗の「丸五」に共有してもらった鉄の地下足袋のラスト（鋳型）を首都アディスアベバのラスト職人に依頼し、プラスチック製のものを模作した。あわせて、製作に必要な材料となる革、接着剤、紐などを購入した。

首都アディスアベバから調査地に裁断と釣り込み・貼付け専門の2人の職人を製作補助として招聘し、ウォリソの職人カップバラ氏がデザインと作業全体の指示、縫製を担当しながら、協働で製作に関する調査をおこなった。その結果2017年9月5日から9月8日までの4日間、合計38.5時間の作業時間で18足の革製の地下足袋が完成した。エチオピアに存在する、人・素材・技術によって、革製の地下足袋が制作できることが本調査により明らかになった。

2018年度(2)制作(3)販売(4)宣伝の調査に関する成果

2018年9月8日に、カップバラ氏に「足を護り・彩る」多様なデザインと制作を委ねる形で、3週間で200足の地下足袋の制作を依頼した。その後フィールドを離れ、2018年10月4日に再訪し10月26日まで調査をおこなった。政治情勢の悪化により原材料の入手が遅延したため、納期は遅れたものの、10月15日に16デザイン以上、200足の地下足袋を完成することができた。

カップバラ氏とともに、販売と宣伝に関する調査を行った。現地の文脈に沿った、販売に向けた宣伝用具として、木製の看板を現地の家具屋に製作依頼し、展示方法なども含めて検討した。あわせて、Ethio-TabiについてSNSを用いて周知活動をおこなった。その結果10月14日のカップバラ氏の店で行った現地での披露・販売会には多くの人が集まり高い評価を得た。しかし販売数は1足、注文数は3足という低調な結果であった。10月22日には、これまでの調査をおこなってきた村での、宣伝に関する調査をおこなった。180足の地下足袋を並べ、祝福の儀礼を受けるとともに、地元テレビ局による取材を受けた。Ethio-Tabiの協創的実践研究のストーリーをはじめ、機能性、特徴、現在の課題、今後の展望について現地語で説明をした。また、これまでの調査に協力的であった、55名の地域住民に、履き心地や機能性などを評価してもらうために試用品を宣伝の調査も兼ねて提供することができた。今後はこの後のEthio-Tabiの(1)使用に関する経過の情報を収集することも含め、地下足袋協創を発展させるために必要な知識、制度、研究者の役割などを考察し実践するための準備が整った。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計7件)

- (1)「フィールドとともにできること：エチオピアにおける産学・文理連携の地下足袋協創研究をめぐって」第53回日本文化人類学会、於東北大学、2019年6月1日。
- (2)「Ethio-Tabiの創造に関する実践的地域研究 ウォリソにおける地下足袋の販売と宣伝に関する課題」口頭発表、第28回日本ナイル・エチオピア学会、於京都大学稲盛財団記念館3F大ホール、2019年4月21日。
- (3)「エチオピアと地下足袋を起こす」第28回日本ナイル・エチオピア学会公開シンポジウム「アフリカと身を起こす」口頭発表、於京都大学百周年記念館、2019年4月20日。
- (4)「地下足袋をともにつくる：エチオピアにおける新たな労働履物文化の創造に関する実践的地域研究」口頭発表、第55回日本アフリカ学会、於北海道大学、2018年5月26日。
- (5)「Ethio-Tabiの創造に関する実践的地域研究：ウォリソにおける地下足袋製作に関する課題」ポスター発表、第27回日本ナイル・エチオピア学会、於東京外国語大学、2018年4月22日。
- (6)「耕牛皮で農民の足を護る：エチオピアにおける地下足袋の協創に関する実践的研究」口頭発表、第23回生態人類学会、於ユインチホテル南城、2018年3月25日。
- (7)「Ethio-Tabiの創造に関する実践的地域研究：オロモ農耕民への地下足袋導入の課題」口頭発表、日本ナイル・エチオピア学会第26回学術大会、於富山大学、2017年4月16日。

〔その他〕

受賞

- (1)「アフリカと足を護り・彩り・測る地下足袋協創の研究事業」JST 第4回COI2021会議オーディエンス賞、2018年(平成30年)12月19日、日本科学未来館。
- (2)「アフリカと足を護り・彩り・測る地下足袋協創の研究事業」JST 第4回COI2021会議、COI2021表彰特別賞、2018年(平成30年)12月19日、日本科学未来館。
- (3)「エチオピア・ウォリソにおける農耕民の足を護る地下足袋の生産・普及に関する実践的

研究活動」日本ナイル・エチオピア学会高島賞、2018年(平成30年)4月22日、東京外国語大学。

- (4)「アフリカと産学官連携による Ethio-Tabi の創造を目指す実践的地域研究」東北大学若手アンサンブルワークショップ、優秀ポスター賞、2017年(平成29年)7月3日、東北大学防災科学研究所。

報道関係情報

- (1)機関誌『専門店』「ロンドンの街角から241 海外で活躍する“地下足袋”」高階玲子、2017年、3月4月号 No.763、11ページ。
- (2)朝日新聞 GLOBE Web オリジナル アフリカの明日を考える「エチオピア伝統農業 日本の地下足袋で支援 京大研究者の取り組み」2016年7月27日。
<http://globe.asahi.com/feature/side/2016072600001.html>

アウトリーチ活動情報

- (1)「エチオピアの地下足袋とはかる」アフリカセミナーの会、於仙台国際センター1階研修室、2019年5月16日。
- (2)「エチオピアでの地下足袋プロジェクト：農村でのアントレプレナーシップを目指して」ジェトロ・アジア経済研究所 夏期公開講座コース3 エチオピアの社会を知る：急激な経済成長のなかで変わる社会、於ジェトロ本部5階 ABCD 会議室、2018年8月1日。
- (3)「フィールドワークでアフリカと地下足袋をつくる」山形県立東桜学館中学校平成30年度中学3年「キャンパスツアー」分科会①「若手研究者からのお話」於東北大学川内キャンパスマルチメディア棟6階大ホール、2018年6月27日。
- (4)「アフリカ地下足袋イノベーション」東北大学・山形大学 COI 拠点、若手研究者交流会於山形大学 2018年6月2日。
- (5)「越境する地下足袋：フィールドワーカーとアフリカによる新たな履物文化協創の試み」NIHU UBRJ Seminar 口頭発表、於北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター4階小会議室(401) 2018年4月26日。
- (6)「海外でのフィールドワーク」口頭発表、福島県立磐城高等学校、於東北大学、2018年4月16日。
- (7)「協働から創造への実践的地域研究：アフリカ地下足袋プロジェクトの未来可能性」口頭発表、若手研究シンポジウム 地域×研究×実践、於神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ、2017年12月9日。
- (8)「丸五のラストとアフリカで地下足袋をともに創る」口頭発表、株式会社丸五、於株式会社丸五本社、2017年12月6日。
- (9)「エチオピアとともに地下足袋をつくる」口頭発表、アフリカセミナーの会、仙台国際センター一階研修室、2017年11月16日。
- (10)“Designing *Ethio-Tabi* Work Footwear: Key Lessons from Collaborative Fieldwork between Researchers, Shoemakers, and Farmers in Ethiopia” Oral Presentation, 2nd Collaborative Symposium for Early Career Researchers -Thinking across Boundaries: The Fluidity of Asia, Africa and Beyond, SOAS (The School of Oriental and African Studies) Senate House S320, United Kingdom, 18th September, 2017. Symposium Organizer.
- (11)「Q's カフェ glocal Insider talk 第11回 履物探求：地下足袋文化とは何か？日本とアフリカでの老舗企業と研究者の挑戦」口頭発表、於ガイアックス別館、2017年3月17日。
- (12)「アフリカと地下足袋を創る」口頭発表、アカ(デミック)トーク、Tiki-Poto、仙台、2017年10月18日。
- (13)「丸五足袋と Ethio-Tabi の実りあるより良い関係を目指して：実践的地域研究者の視点から」口頭発表、株式会社丸五、於株式会社丸五本社、2017年5月17日。
- (14)「アフリカでのフィールドワーク」口頭発表、スーパーサイエンスハイスクール福島県立磐城高等学校、於東北大学、2017年4月21日。
- (15)「Q's カフェ global outsider talk 第7回 地下足袋での農業への挑戦-エチオピアでの地域研究者の報告」口頭発表、於Q's カフェ、vacancy 五反田、2017年2月18日。
- (16)「エチオピアによる地下足袋 BOP ビジネスの創造を目指す地域研究者の試み」口頭発表、於スーパーグローバルハイスクール(SGH)京都学園高等学校、2017年2月4日。
- (17)「フィールドワーカーによる開発実践と研究：アフリカ地下足袋プロジェクトの課題と展望」口頭発表、IDDP 英国開発学勉強会、於 Christopher Ingold Building G21 Ramsay LT, UCL (University College of London), United Kingdom、2017年1月28日。
- (18)“Engaged Area Studies to Creating Jika-Tabi Footwear culture of Africa: Potential of Ethio-Tabi Research project in Ethiopia” Poster Presentation, Kyoto University Africa Unit Kickoff symposium. Inamori Foundation Memorial Hall, Big size conference room, The Center for

African Area Studies, Kyoto University, Japan, 11th March, 2017.

- (19) “Potential of Jika-tabi Research Project in Ethiopia: Shifting the Style of Study from observation to Practice” Oral Presentation and Workshop Organizer. International Workshop by Young Field-Based Researchers for future collaboration. SOAS (The School of Oriental and African Studies) GS303, United Kingdom, 27th January, 2017.
- (20) 「アフリカ農村がつくるあらたな地下足袋文化の探求」写真展による研究発表、於 Bar Violon 京都市、2016年9月1日-2016年9月7日.
- (21) 「アフリカ農村がつくるあらたな地下足袋文化の探求」写真展による研究発表、アラカワ・アフリカ7、於アフリカ屋、荒川区、2016年8月15日-2016年8月21日.

ホームページ情報

- (1) Toshikazu Tanaka: Ethio-Tabi <https://sites.google.com/view/ethio-tabi/home>
- (2) Mana Ethiopia : エチオピア屋の研究記録 <http://toshikazutanaka.blogspot.jp/>
- (3) Facebook : アフリカ地下足袋プロジェクト <https://www.facebook.com/africa.jikatabi/>

6 . 研究組織

研究分担者及び研究協力者はなし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。